1992年6月5日第3種郵便物承認　ＫＴＫ増刊通巻第4969号　　2020年1月15日発行（毎月1回25日発行）

KTK

NO.１０５

後援会費郵便振替口座
０１０７０－７－３２１４５
あらぐさ後援会

あらぐさ通信

編　　集　あらぐさ後援会
編集協力　社会福祉法人あらぐさ福祉会
〒617-0813　京都府長岡京市井ノ内広海道42－3
TEL 075-953-9212　FAX 075-953-9215

初春 2020

本年も変わらぬご支援のほどお願い申し上げます

フェルト作品展
奇蹟的羊

利用者さんの手のひらにフェルトをのせ、見学者によるワークショップ

昨年 10 月の「あらぐさひろば」と同時開催したフェルト作品展「奇蹟的羊」はたくさんの見学者を迎えました。フェルト作品作りのワークショップではあらぐさの利用者さんとにこやかにとりくんでいました。

無償の愛　君語る　夢の中

ずーと見守っているよ

茂さんは42歳。お兄さんと２人兄弟。「あらぐさ」で働き、「ケアホーム　かざぐるま」で３人の仲間たちと一緒に暮らしています。

おいたち

お母さんの実家がある徳島で誕生しました。4250g の大きな赤ちゃんでした。２歳過ぎ、高槻市から大山崎町に転居。転入児検診があり「言葉の遅れ」「早く集団に入れた方がいい」と助言を受け、２歳半からポニーの学校に毎週通いました。大山崎からミニバイクの後部に乗せての通園でした。風を切りながら走るのを楽しみ、立ち上がる茂さん。その状況に危険を感じ、お母さんは免許を取得し、自動車に切り換えました。３歳から大山崎第一保育所に入所しました。加配の先生に付いてもらいましたが、半日の保育所生活しか認めてもらえず、他のお母さんとは別物と感じ、孤独でした。

地域の障がい児学級からスタート
小学２年生からは向日が丘へ

就学は大山崎第一小学校へ、２年生から向日が丘養護学校に転校しました。その３日後母子で散歩中、茂さんを見失ってしまい、JR の貨物列車にはねられました。両足大腿部骨折で第一日赤に３か月程入院していました。７月にやっと自宅に戻り通学できるようになりました。

その頃、貧血状態もあり、偏食で苦労していました。学校にホットプレートを持ち込み、お好み焼きや焼きそばなどを作ってもらい、給食の代わりに食べさせてもらいました。

茂さんが入院中に、担任の先生が中心となり、大山崎に障害児学童をつくる準備が進められていました。

その夏から障害児学童「ともだちの輪」は、大山崎社協の一部を借りてスタートしました。茂さんは中学部で一輪車に乗れるようになり、社協の庭で、一輪車に乗ってキャッチボールをしていました。運動機能は抜群！でした。小さな集団で指導員さんはずっと活動に寄り添ってくれ、仲間たちだけではなく、親たちにも楽しい思い出をいっぱいつくってくれました。親たちもみんなで資金づくりを頑張りました。

その後、高等部は長岡京市に転居

自転車で通学するという夢を描き、向日が丘に近い長岡京市に転居しました。２年間は母子で自転車通学をし、３年目は寄宿舎に入り、初めて親と離れて暮らすこととなりました。田畑の近くを自転車で走ることは楽しく、日曜日には親子３人で広い洛西の歩道を走りました。紅葉の時期は格別、大自然の美しさを目にしながら走る茂さんでした。

高等部時代の保護者で、「さくらの会」と名付け、卒業後の進路を考える会を持ちました。山中先生が中心となり、その会で「あらぐさ」の情報や親の思いを定期的に語る中で進路を決めていきました。

卒業後はあらぐさへ

当初、自転車で通えるという想定もありましたが、残念ながら光明寺前にあったあらぐさは、海印寺に移転。送迎車に乗っての通所となり、その後、太鼓山に移転しました。

そして今、海印寺にある「ケアホーム　かざぐるま」からあらぐさに通所しています。あらぐさにおいて、一人ひとりに合った活動を用意してもらう中で、経験したことは見通しを持ちながら取り組めているようです。仕事をすることや楽しいことで日々を過ごしてくれています。

「ケアホームかざぐるま」のくらし

茂さんは、心療内科の主治医の投薬治療を受けています。今「かざぐるま」では、こだわりやいらつきといった苦痛は軽減されて、茂さん本来のおしゃれで几帳面な暮らしぶりです。空色のディズニーのシャツにボーダー模様のズボン、水玉の靴下といったようにトータルなファッションを自分で選んで身に着けています。最近では毎日、お気に入りの上着やズボンや靴下を着ていますが、同じものがない時は洗濯機や乾燥機の中を捜してみてから、あらためて違うものを選んでいます。

不眠や季節の変わり目などの時、情緒的に不調なことがありました。そんな時には、パズルをしたり、箪笥の衣類をきれいに畳み直したり、おもちゃを拭いて片付けたりするなど、気持ちの切り換えや整理のつく活動を、ヘルパーと一緒にしています。

苦手なことは、所在のないバス待ちの時間などが長く続く時です。玄関でヘルパーと肩の叩きっこをしたり、手遊びをしたり、シャツの襟を直したり、ヘルパーとの意味のある活動でのコミュニケーションで時間を過ごして気持ちをつないでいます。おやすみの時は、ベットの上で興味のある松の枝を数本枕元に置き、テレビのチャンネルを操作してゆったりと大相撲や野球を楽しんでいます。

お母さんの思い

土曜日、家に帰ると玄関先の松の木が「茂さんお帰り」と目が合うのです。茂さんは「帰ったよ～」飛びついて行くのです。

日曜日、茂さんは「行ってくるよ～」と一本の松の枝がポロリと落ちて来ます。松の木に見送られ、それで、気分よく「かざぐるま」の生活に戻って行くことを繰り返し 16 年。自分の居場所として了解できているようです。

お母さんは、10 年前にサークルを作るような軽さで介護事業を起業しました。仕事を持つことで茂さんとの距離感が保たれています。茂さんもそれを受け入れてくれています。そうでなければ、茂さんのことばかり考え、利用者の立場でしか世の中を見られていなかったかも知れません。

《無償の愛　君語る　夢の中　なんちゃって》

どれだけ茂さんのことを思い巡らせても親が先立つもの。「かざぐるま」で多くの支援者に寄り添われて暮らしてきました。性格、声の掛け方、対応も違うであろう支援者の方たちとこれからも折り合いをつけていかなければなりません。時に困惑することもあるかもしれませんが・・・・穏やかな暮らしを願って、そしてお母さんはじっと見守っていたいと思っています。今、大きな懐で受け止めてくれる柔軟な支援者の方々に囲まれて穏やかな表情、安定した暮らしをしています。恵まれた環境に感謝です。

（取材：前田幸子　真殿尊子　森垣美知子）

１０月5日　笑顔あふれる「ひろば」

「みんなおいでよ～あらぐさひろば」ですっかりおなじみとなった、清々しい管楽器の演奏で開会を告げる「ひろば」です。演奏や舞踊に感動し、気に入ったものがあれば買い物を、模擬店の食べ物で舌鼓、子どものコーナーで楽しみ、ワイワイと話しに花が咲きます。フィナーレの福引きでは地域やあらぐさの商品がプレゼントされました。

又、今回の「ひろば」からフェルトの作品展「奇蹟的羊」が開催され、その後も６日間、展示即売が行われました。

たくさんの方が「ひろば」に参加し、楽しく交流することができました。ありがとうございました。

屋外で

模擬店ブース

屋内で

地域交流室で

大盛況！！奇蹟的羊

１０月５日㈯から１０日㈭まで、２年ぶりとなるデイサービス１のフェルト作品展「奇蹟的羊」が開催されました。今回は、「あらぐさひろば」と同時開催となったこともあり、これまでより沢山の方が足を運ばれました。

今回の開催場所は、障害福祉センターあらぐさの新館にある地域交流室「あおば」でした。開催の２日前から、利用者の皆さんの賑やかな様子で準備を進められている声がよく聞こえていました。今回は３つのグループごとにブースを分けてディスプレイをしており、フェルト作品を含め、藍染めや土染めの作品など、それぞれ特色の出た作品達が並べられていました。来場者は、手にとってじっくりとみたり、お連れの方とどのように飾ろうかと会話をされていたりと、あたたかい雰囲気が感じられました。

そうした来場者の方達から頂いたメッセージの中には、

「新しい製品展開が見られて、創意工夫があり素敵な作品がいっぱいですね」

「どの作品も、心も体も暖まりそうな物ばかりですね」

「みなさんが作業に取り組んでいる時の得意な顔や、嬉しい表情が目に浮かんできそうです」

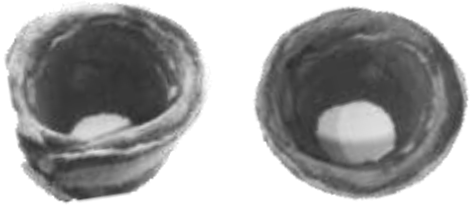
といった言葉がたくさん書かれていました。

作品展は大盛況の内に終わりましたが、また次の機会には日々の活動の中で生まれる素敵な作品が並ぶことと思いますので、楽しみにしていてくださいね。

製品紹介

Ａグループ

「フェルトカップ」



今回紹介するのはデイセンター１Ａグループの「フェルトカップ」です。

デイセンター１の作品展「奇蹟的羊」でお披露目しました。花の鉢をかわいく包み込んでくれたり、紙コップでコーヒーを飲むときに熱さを和らげてくれたりと使い方は様々です。あらぐさに通う利用者の皆さんが、色を選んで少しずつ縮絨（しゅくじゅう）を重ねて作り上げました。温かみのある色が、みなさんの日常をほっこりと癒してくれることでしょう。

（縮絨　しゅくじゅう　―　羊毛に石けん液を混ぜ、力を加えながら羊毛を絡ませる）

～えがおの手しごと展～　創17th

◆日時　　2020 年　3 月 7 日(土)　12:00～17:00
8 日(日)　9:00～17:00
9 日(月)　9:00～15:00

◆会場　　長岡京市立産業文化会館

入場無料

さをり、染め、フェルト等の作品を展示します

皆様のご来場をお待ちしています

とっておきの一枚

芋ほり

一昨年からいろどりのもえぎ女性棟とたちばな棟の間にあるミニ畑でさつま芋作りにチャレンジしています。もえぎ女性棟のメンバーさんたちが元々プランター菜園でミニトマトやピーマン等を育てていたので、ミニ畑も借りてお芋も植えてみようということになりました。

苗を植え、お芋のつるが伸びてくると、部屋の窓から「おーい！お芋さん！おはよー！」と声をかけてくれるメンバーさんもいます。収穫の時期になると「◯日に芋ほりをします！」と呼びかけます。その時は皆さんやる気なのですが、当日になると「今日は疲れてるし、いいわ～」だったり、「他のことで頭がいっぱいで芋ほりどころではありません！」という状態だったり・・・なので、他の棟に急遽「芋ほりしませんかー！」とお誘いに行ったり、通りすがりのあらぐさ職員さんを巻き込んだりしながらプチ芋ほり大会となりました。

そんな風に、その日の気分やタイミングで植え付けや収穫、お芋パーティー等、これからも気楽～に楽しめたらなぁと思っています。今年は“目指せ！お芋収穫１０本！！”　（昨年までは５本ずつくらいだったので…）

「星に語りて～Starry Sky～」　上映会のお知らせ

日時　2020年２月１日(土)
会場　長岡京市　中央公民館　講座室
入場無料　　定員　70名
＊会場であらぐさ福祉会の自主製品の販売も行っております

13：30　開場　受付
13：50　あいさつ
14：00　上映開始
16：15　終了予定

主催　あらぐさ福祉会

あらぐさと私

障害福祉センターあらぐさ　職員

高谷　莉央　さん

（たかたに　りお）

デイセンターあらぐさ２に所属しています、１年目の高谷莉央です。

私はリハビリ専門士になりたいと思い、医療、福祉の学校に入学しました。その中で児童発達支援、放課後等デイサービスや就労支援施設など、障がいのある方が日常を過ごす施設に実習に行く事が多くありました。障がいのある方と長期に渡り、関わりを持っていくにつれ、福祉の仕事に強く興味を持つようになりました。

その際、知り合いの方にいくつかの障がい福祉施設を紹介してもらいました。その中でもあらぐさに見学に来させていただき、メンバーの皆さんや職員の方々が笑顔で楽しそうに活動されていることがとても印象的でした。また、自分が生まれ育った乙訓の地域で障がいのある方の支えになりたいと思い、あらぐさで働いてみたいと思いました。

働き始めて約半年が経ち、メンバーさんとの関係性も少しずつ築けてきているように感じます。活動では、フェルトなどを通し、皆さんが一生懸命作られた作品を、他職員さんと工夫して製品化していくことに楽しさを感じています。また、外に出て開放的に和気あいあいと活動することも楽しく、毎日が過ぎるのがとても早いことを実感しています。共に活動していく中で、メンバーさんの心境が分からず、どのように対応し接するのが良いのか悩む事もありますが、メンバーさんに助けて頂くことも多くあります。

今後もメンバーさんに寄り添い、毎日を楽しく過ごしていきたいと思います。まだまだ、周囲の職員さんに助けて頂きながらですが、このあらぐさで成長していきたいと思っています。よろしくお願い致します。

映画解説

きょうされん４０周年記念製作映画「星に語りて～Starry Sky～」は東日本大震災を題材にし、その当時、障害のある方やその支援者がどういう状況だったのかを、取材を元に忠実に描いた映画です。

2011 年３月 11 日のわが国観測史上最大の地震、東日本大震災による傷跡は、未だに人々の心の中に深く刻まれています。しかし、１万８千人を超える死者の中で、障害のある人の死亡率が全住民の２倍だという事実を知る人は少ないのではないでしょうか。震災が起きた時、障害のある人の身にいったい何が起こっていたのか。「障害者が消えた」という言葉の意味とは。実力派俳優陣に加え、障害当事者が出演し、人間味あふれるドラマが繰り広げられます。

あらぐさ後援会　加入・募金　ありがとうございました

（２０１９年8月１１日～１１月２０日　　敬称略　順不同）

赤城博子　浅田光代　網谷億子　生路智子　伊藤卓次　井上世津子　射場隆　今井和子　今井正　今井千代子　医療法人社団くぼた医院　窪田小弓　岩田三枝子　上野志保子　一般社団法人江後経営　大城まゆみ　大月裕子　大坪晴美　大橋祐子　荻野和雄　乙訓医療生活協同組合　小野留美子　勝山廣美　門野陽子　川瀬明子　岸陽子　北村民子　京都府立高教組向日が丘支援学校分会　金原道雄　窪島敏子　粉川晴美　小北英子　小坂文夫　佐伯敏子　坂下三良　坂下佳子　佐々木成子　佐々木久子　佐藤敦子　重松悦子　庄田馨　白石直子　新免冨美子　宋彦一　竹下誠　武山彩子　田代千代子　田中善久　谷下久子　谷下哲馬　田主祥子　千脇正子　塚上公治　辻本勝浩　辻本恭子　津田拓也　坪野津由子　時田麻里　Ｔ&Ｔ美容室鳥居敏江　中川耕二　中村弘子　中村文子　中村雄策　西田政子　西野由美子　橋本匡人　波多由紀子　馬場かね子　原木とし子　ぱんだ企画　平方スミ子　平田喜洋　藤松素子　ベーカリーセルフィーユ　堀江幸男　本多三郎　増田尚　松居正利　松家隆子　松田恵美子　松村美代子　水谷和夫　水谷美穂　道場恵美子　南やすこ　三宅州人　宮﨑俊一　宮嶋均　宮島節代　宮島宏之　宮田啓子　村上久代　村上昭雄　村野英介　森川浩世　森本達也　森山正博　八木弘行　山下敏夫　山下紀子　山根信子　山本朝栄　山本弥生　山本義則　山本恭子　吉田美津恵　療術院うえの上野徳太　医療法人社団松本クリニック松本恒司　今村知佐　山本眞弓　匿名６名

後援会費納入とあらぐさ支援募金のおねがい

・同封の振込用紙をご利用ください。
・入金と行き違いになりました際はご容赦ください。
・後援会費、支援募金には「KTK あらぐさ通信」紙代が含まれています。

きょうされん第 43 次国会請願署名・募金へのご協力のお願い

「あたりまえに働き　えらべるくらしを　～障害者権利条約を地域のすみずみに～」というスローガンはあらぐさの理念とも重なる部分があります。全ての人の権利と命が大切にされる社会を目指すため、ご協力お願いします。

12 月 6 日街頭署名を開始

1992 年 6 月 5 日　第 3 種郵便物承認（毎月 1 回２５日発行）2020 年 1 月 15 日発行
ＫＴＫ増刊通巻第 4969 号　発行所　京都障害者団体定期刊行物協会
〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル中之町 519　京都社会福祉会館４階
京都難病連内　発行人　髙谷修　頒価 50 円（購読料は会費に含まれています）

KTK
あらぐさ通信